

令和 7 年度 三好市立学校 評価報告書

学校名(三野中学校)

校長名(辺見 俊二)

作成日 令和8年3月13日

1 総括評価

評価分野	自己評価 (平均値)	自己評価結果の概要	学校関係者評価の概要	次年度の改善策
① 学校経営及び学校運営に関する評価	3.3	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営方針を全教職員で共有したが、実践においては協働する意識を更に向上させる必要がある。個々の個性や能力を活かせる校務分掌を行い、それぞれが責任をもって遂行している。教師力向上につなげる研修も計画的に実施できた。ICT活用、ペーパーレス化を推進し、業務の効率化を推進できた。 	<ul style="list-style-type: none"> HPや各種便りを見る割合も向上傾向なので、より良い情報発信により学校の取組や経営方針を周知してほしい。 学校へ行くことを楽しみにしている生徒が多いが、「授業はわかりやすい」「宿題や提出物を提出している」が若干低下しており、授業力向上、授業改善に努めてほしい。教育の基盤は信頼であり、教職員には生徒の範となる言動を期待する。 予測困難な社会をたくましく生き抜き、社会に貢献する人材育成に校外の教育力を積極的に利活用してほしい。 保護者、地域の方々により多く参加できる学校行事になるよう、工夫してほしい。「豊かな心の育成」に関連する生徒アンケート全項目で肯定的な回答率が向上しており、継続して指導してほしい。 教員はそれぞれに熱心に教育活動をしていると思われるが、保護者には伝わっていない。学校の取り組みの周知や情報共有を更に密にし、保護者と学校の協働体制の構築・充実が望まれる。学力や豊かな心の育成に有効とされる読書習慣の定着にも努めてほしい。 家庭や地域との連携に関する保護者アンケート4項目中3項目で10%前後昨年度を下回っており、引き続き原因を検討し、改善が必要である。相談窓口の周知も必要である。学校支援ボランティアによる支援や地域の利活用をさらに推進してほしい。 生徒の交通安全への意識は高いが更なる指導の充実が求められている。電子黒板やタブレット等を活用し、教育効果を向上させるとともに情報モラル教育の充実を図ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 経営方針の具現化につながる研修の機会の確保、心理的安全性の醸成に向けた工夫に努める。新組織でも個々の個性・能力、希望を把握し、モチベーションを維持向上させる。また、人権教育、授業力向上を核とした研修を計画的に行い、信頼される組織風土づくりを進める。 人権教育での本年度の実践を評価・改善し、更なる充実を図り、教育目標達成に最善を尽くす。学校支援ボランティアの参画を得てより効果的に地域の教育力の利活用を進める。各行事の意義と働き方改革の観点から再検討し、教育効果の向上を図る。 保護者アンケートの結果を真摯に受け止め、本年度の教育活動を反省し、個々の支援・指導と指導体制の改善策を検討し周知・実践したい。また、次年度も人権教育を教育活動の中核に据え、思いやりある生徒の育成に励みたい。 学年便りや学校便り、HPの内容や回数を検討し、保護者・地域へのより充実した情報発信するとともに保護者・地域の意見や要望に耳を傾けて、改善に努める。保護者、教職員の負担と教育効果を考慮しながらPTA活動を改善・充実していく。教育効果を上げるために本年度以上に外部講師や地域人材の利活用を進めたい。 安全安心の確保に向け、教職員の危機意識の高揚を図り、全職員での安全管理・点検、安全教育を励行する。また、タブレットやICT機器の効果的利活用につながる研修を継続的にを行い、教職員の意識改革や校務の効率化を進めた。働き方改革推進の視点で業務改善に努めたい。
② 教育目標及び教育計画に関する評価	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標達成に向け、人権教育の充実を核に取り組んだ。実態に応じた教育課程の編成と実践が概ね行え、地域の教育力による支援も取り入れることができた。各学校行事においては見直しを励行し、内容のスリム化、意義の見直しを重ねた。 		
③ 主要な教育活動に関する評価	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 生徒ひとりひとりを大切に指導・支援し、信頼関係構築に努めた。人権教育を推進し、生徒の人権意識の高揚は図れたが、授業規律の徹底、生徒指導体制や相談体制の構築には課題もあり、反省が必要である。各課題を改善し、安全・安心な学校づくり、思いやりあふれる生徒の育成を推進したい。 		
④ 保護者や地域との連携に関する評価	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 学校便りやホームページ等を通して、教育活動や生徒の活動状況を定期的に発信することができた。学校支援ボランティアや地域人材への支援依頼を行い、教育効果を上げることができた。また、PTA活動は効率化、負担軽減を念頭に最小限とした。 		
⑤ その他、上記以外に関する評価 (ICT機器の活用)	3.2	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーターを核に生徒個々に寄り添った特別支援教育を心がけ丁寧に支援できた。ICT機器の利活用は昨年度よりはかなり推進できた。部活動の見直し等、働き方改革の推進も充実させた。 		

(1) 4段階評価とする。

評価基準 4＝達成度が 80～100 %
 3＝達成度が 50～ 80 %
 2＝達成度が 30～ 50 %
 1＝達成度が 30% 未満

(2) 総括評価表の「評価(平均値)」については、「2 分野別評価」の(1)～(5)の評価をそれぞれ平均(小数第1位)したものととする。

(3) 分野別評価の「評価項目」の「その他」については、各学校において必要事項を記入のうえ評価する。

(4) 総括評価の「評価分野-その他」の項目の()には、分野別評価の「(5) その他に関する評価」の中から、特に重要視する事がらを記入する。

(5) 総括評価及び分野別評価の「学校関係者評価の概要」欄は、学校関係者評価委員会(学校運営協議会も可)において評価された結果をまとめたものを記入する。

(6) 「次年度の改善策」の欄は学校評価委員会及び学校関係者評価委員会において協議された改善策をまとめたものを記入する。